

名古屋市港区築地の「夢塾 21」による地域主導のまちづくり

地区総合整備を進めている築地地区では、昭和 61 年に設立した「築地ポートタウン 21 まちづくりの会」の専門委員会として、官民一体のコラボレーション組織「夢塾 21」を平成 8 年 8 月に発足。福祉や景観をテーマにしたタウンウォッチング、稲荷公園再整備や旧防潮堤の修景など、市民主体のまちづくり活動に取り組んでいます。

【時代の変化に対応した土地利用転換を目指し、地区総合整備を推進！】

明治以降名古屋港の後背地として発展してきた築地地区は、昭和 30 年代以降に港湾機能の沖合展開が進み、人口の減少や商業業務機能の停滞が問題になっていました。そこで、市では昭和 55 年に築地地区を「地区総合整備」地区に指定し、地区シンボル軸である江川線の街路事業や密集市街地整備促進事業、再開発事業など、親しみある「みなとまちづくり」を進めてきました。昭和 61 年には、商店街や地元企業など約 160 名が集まって「築地ポートタウン 21 まちづくりの会（以下、まちづくりの会）」を設立。これを契機に行政主導で始まったまちづくりは住民主体のまちづくりに徐々に移行しました。



<h4>江川線街路事業</h4> <p>地区の性格である江川線の拡幅整備とともに快適な歩行空間のための緑道整備を行い、海の玄関口にふさわしい景観軸としての整備を図ります。</p> <p>区間延長：約1.7km （港区役所～ガーデン公園） 幅 員：50m （緑道片側幅員11.75m～14.0m）</p> 	<h4>港区地区住区総合交通安全モデル事業（ロードビア）</h4> <p>江川線、新ノ本線に囲まれた住宅地において、道路交通を抑制した歩行的交通安全対策として歩車共存の道路を整備しました。この制度による市内での最初の事業です。</p> <p>地 区：約17.6ha （船場一丁目、船場二丁目、船場三丁目）</p> 
<h4>浜密集住宅市街地整備促進事業</h4> <p>情緒ある街を背景としたうるおいのある住宅地づくりを目標として、並列住宅の改善や、生活道路の整備、子供の遊び場、集合所などの地区施設整備を行うことにより住環境の全体的な向上を図ります。</p> <p>地 区：約7.1ha （船一丁目、船二丁目内）</p> 	<h4>築地地区都市景観整備</h4> <p>江川線沿道及びガーデン公園を都市景観整備の重点的地点として「都市景観整備地区」に指定しました。地区内では別荘地跡にあふれる個性豊かな街並みとして整備、誘導が行われています。</p> <p>地 区：約11.0ha</p> 
<h4>築地第一種市街地再開発事業</h4> <p>江川線沿道の高層利用と地区環境の改善を目標として住宅、店舗、業務施設を複合したビル建設と江川線の拡幅および緑道整備を一体的に行いました。</p> <p>地 区：0.5ha（船二丁目内）</p> 	<h4>名古屋港線街路事業</h4> <p>補助幹線道路として地区を貫通する道路を整備し、交通格差の円滑化を図ります。</p> <p>区間延長：約0.4km 幅 員：13m</p> 
<h4>地区再開発促進事業（築地口第1、第2、第3地区）</h4> <p>港の玄関口の賑わいにふさわしい魅力ある近道建物整備と江川線拡幅整備の促進を図るため、3地区において、調査設計費や土地整備費などの助成制度を活用し、共同建物を建設しました。この制度による全国初の事業です。</p> <p>地 区：入船一丁目、入船二丁目内</p> 	

築地地区総合整備計画図

出典：ちょっとエキサイティング築地（発行：名古屋市築地総合整備事務所〔現在は、臨海総合整備事務所〕）

【「夢塾 21」の誕生！ タウンウォッチングでまちづくりに対する関心が向上】

平成 7 年度、築地地区は福祉のまちづくり事業モデル地区に指定されました。また、平成 9 年 10 月に名古屋市で開催される世界都市景観会議に向けて、市は都市景観市民団体であるまちづくりの会に対し、取り組みの要請をしました。

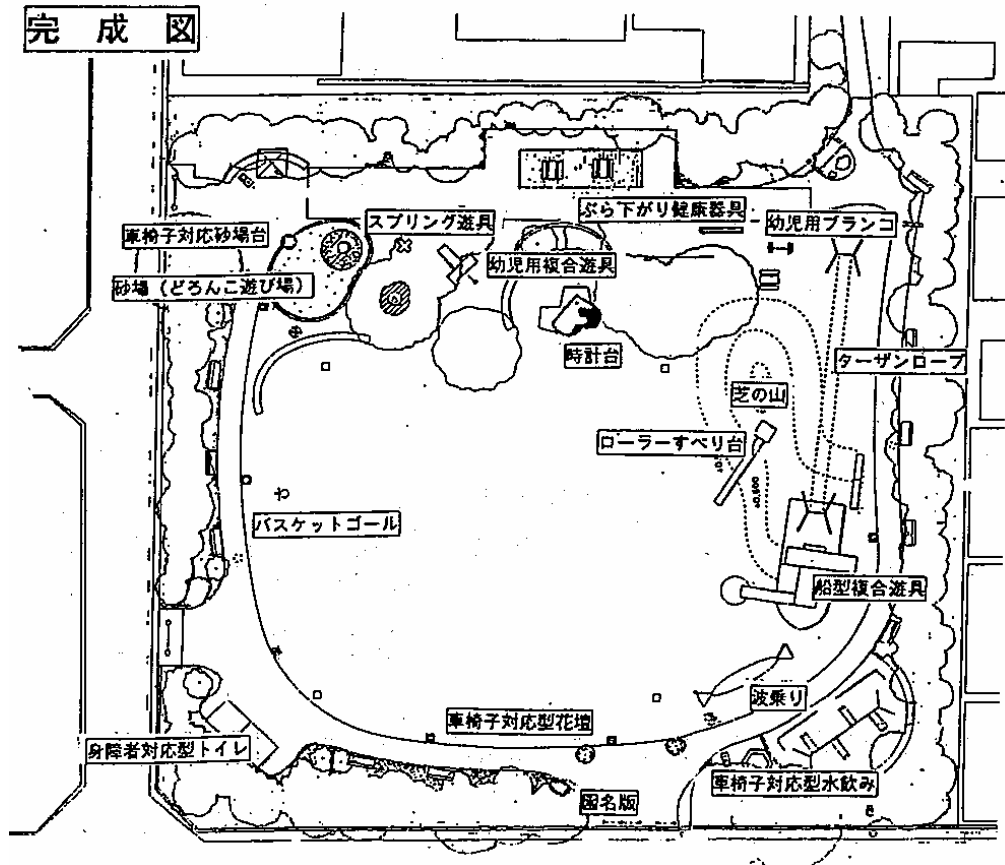
そこで、「福祉・景観」をテーマに築地のまちづくりを考えるために、まちづくりの会では、西築地学区連絡協議会に呼びかけ、まちづくりの会の専門委員会として「夢塾 21」を平成 8 年 8 月に発足させました。そして、「景観・福祉」をテーマとした地区のまちづくりの検討を進めるため、「車いすタウンウォッチング」と「クリスマスタウンウォッチング」を開催しました。こうした取り組みを通じて、地元住民のまちづくりに対する関心がさらに高まり、当初 1 年間の活動として発足した「夢塾 21」の取り組みは次の段階を迎えることになりました。



車いすタウンウォッチングの様子（出典：夢塾 21 ホームページ）

【ワークショップによる稲荷公園の再整備】

「夢塾 21」の取り組み Part 2 として、ワークショップを開催して学区内にある稲荷公園再整備の計画づくりを行いました。そして、平成 13 年 3 月に稲荷公園はオープン。計画から施工までを徹底した学区住民の参加を行った結果、稲荷公園は、「周辺住民の公園」から「学区住民みんなの公園」として生まれかわり、地域住民による自発的かつ主体的な公園の管理・運営活動が行われています。



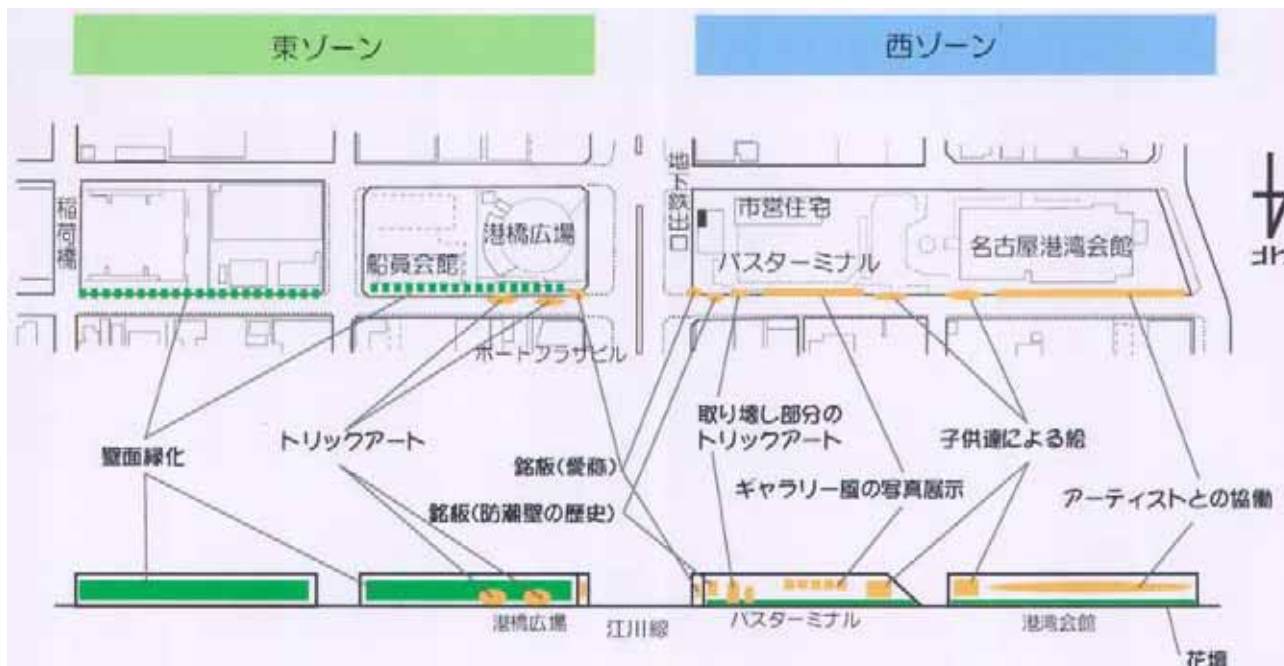
住民参加によって整備した稲荷公園（出典：名古屋市資料）



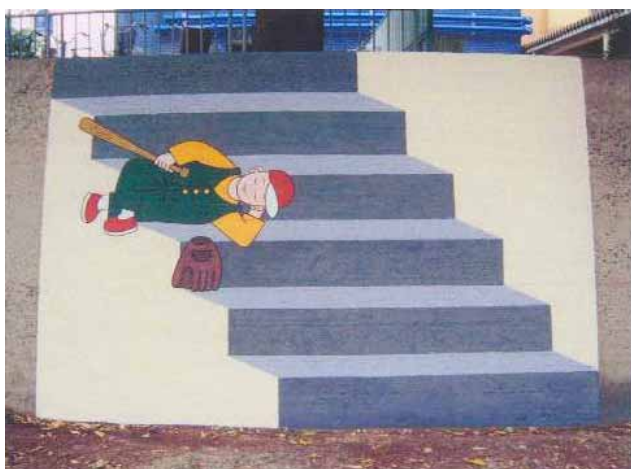
完成後の稲荷公園の様子（出典：夢塾 21 ホームページ）

【旧防潮壁の修景】

住民参加による公園づくりの成功体験が自信につながり、「夢塾 21」では現在、防潮壁の修景の取り組みを実践しています。



「夢塾 21」が作成した旧防潮壁の修景計画（資料提供：名古屋市臨海総合整備事務所）



「夢塾 21」による旧防潮壁の修景活動（写真提供：夢塾 21）

【行政の持続的な働きかけや支援も大切！】

これまで、名古屋市築地総合整備事務所〔現在は、臨海部総合整備事務所〕では、地元への様々な支援や関係機関との橋渡し、ハードとソフトを組み合わせた事業導入をタイミングよく行ってきました。また、都市デザインの専門家などとともに、ボランティアな形で「夢塾 21」のメンバーにも加わってきました。こうした、行政のたゆまぬ関わりが、地元住民の思い・パワーをうまく引き出し、住民主導のまちづくりを开花させた一つの要因になっています。

（参考）夢塾 21 ホームページアドレス：<http://www.geocities.jp/matsu9918/>